# シリーズチャンピオン獲得！！！

AUTOBACS SUPER GT
Round8　富士スピードウェイ　RACE

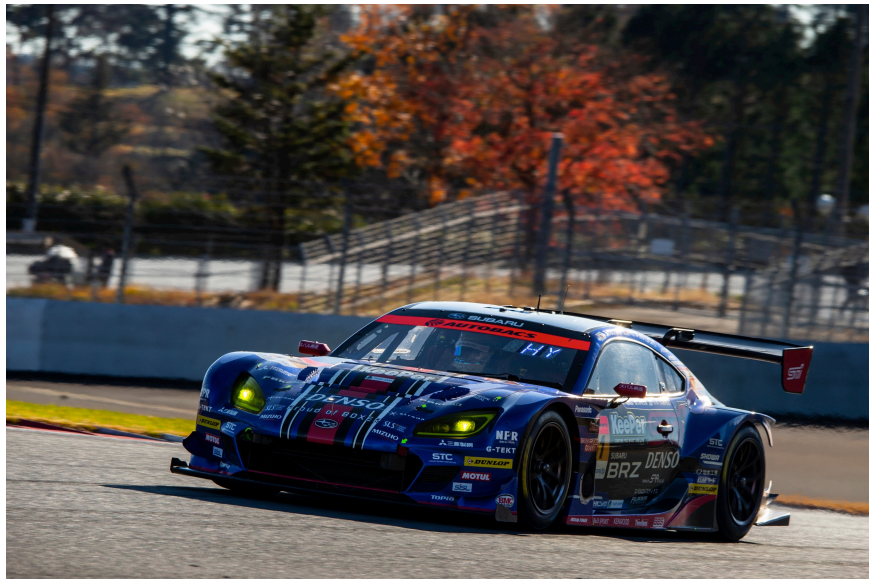
PLANEX CARS.
PLANEX COMM.
神奈川スバル株式会社
eau
gol.
BBS
まえだ眼科
amino VITAL アミノバイタル
FRANCK MULLER GENEVE
air-J
MSt428
Djac Racing Factory
SPK
Arai HELMET
Hidecks WWW.HIDECKS.COM
RA SURTEES
999.9

## <公式練習 / 1位>

シリーズトップで迎えた最終戦。シリーズ2位とは、6ポイント差です。僕たちがチャンピオンを取るためには、優勝、2位を取れば無条件でチャンピオンです。2位の56号車のGTRにポールトゥウィンをされてしまうと、自分達が2位でも逆転されてしまいます。

他力本願ではなく、確実にライバル勢の前でゴールをし自分達のパフォーマンスを最大限に発揮して、自力チャンピオンを取れるようにしていきたいところです。

最終戦の天候は、2日間とも晴れ予報。僕たちダンロップユーザーは、路気温が高い方がとても助かります。走り始めからマシンのバランスも良く、微調整だけで十分戦えるパフォーマンスでした。タイヤ選択もソフト側が摩耗面で保たないために、今回は、ハードタイヤを選択。ロングもしっかり確認をし、練習走行を順調に終えました。



PLANEX CARS.
PLANEX COMM.
神奈川スバル株式会社
eau
gol.
BBS
まえだ眼科 eye
amino VITAL アミノバイタル
FRANCK MULLER GENEVE
air-J
MSt428
Djac Racing Factory
SPK
Arai HELMET
Hidecks WWW.HIDECKS.COM
RA SURTEES
999.9

## <公式予選 / 1位>

今回もQ1を担当してくれるのは、井口選手です。Q1は、井口選手の好みに合わせてリアウィングを増やしていきました。難なく3番手でQ1を通過。コメントから井口選手でちょうど良いバランスだったので、自分は曲がる車の方が好みなので、ウィングを減らしてQ2に挑みます。ハード側のタイヤで、4周目のアタックでもフロントが暖まりきらず、5周目にやっとフロントに手応えを感じ、コースレコードを出してポールを獲得することが出来ました。今シーズン4回目のポールポジションを獲得することが出来ました。
そして幸運だったのは、シリーズ2位、3位に付けるライバル勢がQ1を通過することが出来ず、Q1で敗退。少し有利な展開となりましたが、彼ら達は、ストレートも速く、決勝では必ず上がってくるので,油断せず自分達のレースをしっかり集中して挑んでいきます。

PLANEX CARS.
PLANEX COMM.
神奈川スバル株式会社
eau
gol.
BBS
まえだ眼科
amino VITAL アミノバイタル
FRANCK MULLER GENEVE
air-J
MSt428
Djac Racing Factory
SPK
Arai HELMET
Hidecks WWW.HIDECKS.COM
RA SURTEES
999.9

## <決勝 / 3位>

今回決勝のスタートを担当するのは、井口選手です。菅生戦と同じで、前半はSCカーの恐れもあるので、ショートスティントにして、後半スティントを長くするプランです。

井口選手は、スタートでホールショットを決め、トップをキープします。1周目のブリヂストンタイヤのペースが速くテールトゥノーズで追い込まれる展開でしたが、何とか守りきり、2周目以降は、井口選手のペースが速く、後ろを引き離していきます。

ただ8周目に、コース場でGT300クラスのクラッシュ車両があり、回収のためSCカーが導入されます。これでせっかくのマージンが全て無くなります。その5周後にSCカーが解除され、再スタートが切られます。そこから井口選手のペースが先ほどより上がらず、ポジションを2位に落としてしまいます。タイヤが苦しいという無線が入り、25周目にピットに入り、自分（山内英輝）と交代します。

PLANEX CARS.
PLANEX COMM.
神奈川スバル株式会社
eau
gol.
BBS
まえだ眼科 eye
amino VITAL アミノバイタル
FRANCK MULLER GENEVE
air-J
M-Sta128
Djac Racing Factory
SPK
Arai HELMET
Hidecks WWW.HIDECKS.COM
RA SURTEES
999.9

ピットから出ると大きくポジションが下がっていました。やはり給油が長いので、ポジションは6番手までダウン。そして後ろには、ポイント争いをしている55号車NSX、その後ろには、56号車GTR。自分の前には、5位ランボルギーニ、そして4位を走るAMGが前にいます。この2台を中々パスすることが出来ず、後ろの2台にどんどん追いつかれてきます。
ただこのままポジションを守っていてもチャンピオンは獲得出来るのですが、より確実にチャンピオンを取るには、前2台を抜くことが一番の近道。なので、チームからも無理をする必要は無いと言われたのですが、何が何でも抜くことに集中していきます。
前を走るランボルギーニは、タイヤバーストが原因で戦線離脱。そして前を走るAMGと一騎打ち。詰まってる間に、真後ろまでシリーズ2位のGTRが迫っていました。
そして最終ラップ前に、GT500をうまく使ってAMGをパスをして3位へポジションをあげることに成功。これでシリーズも大きく近づくことが出来ました。

残り数周のところで前を走る車両にもトラブルが出たため、ポジションが3番手に上がっていました。そして最終ラップ。気を抜かず、絶対に確実にチェッカーまでマシンを運ぶことに集中し、運もあって無事にポジション3位でGT最終戦富士戦を終えました。

そしてやっと、やっと、、。待ちに待ったシリーズチャンピオンを獲得することが出来ました！本当に本当に嬉しいです！この時を待ち望んでいました。今年1年強いマシンを作り続けてくれたチーム、STIさん、SUBARUさん、ダンロップタイヤさんには、本当に心から感謝です。そして今まで自分を支えてくださったスポンサーの皆様。そしてまた沢山のSUBARUファンの皆様に、やっと最高の形で恩返しをすることが出来ました。本当に皆様に心から感謝です。SUBARUも25年参戦し、初めてのシリーズチャンピオン。チームも20年続けて悲願の初チャンピオン。その1番最初に僕たちの名前を刻むことが出来て心から嬉しく思います。本当に今年1年沢山のご声援を頂き、本当にありがとうございました。

また今後も、日々成長していけるように
努力していきます。また今後も
ご声援の方よろしくお願い致します。
また来年度のことも決まりましたら
ご報告させて頂きます。
本当に1年間応援ありがとうございました。
山内英輝